

民進党・新緑風会の伊藤孝恵です。

私は会派を代表して、ただいま議題となりました平成29年度補正予算2案に対し、反対の立場から討論を行います。

総理は先般「景気回復の温かい風は地方にも広がりつつあります」などと、まるで危機感のない年頭所感を出されましたが、全国4,000人を対象に行った日銀の調査では「1年前と比べて景気が良くなった」と感じている国民は、わずか8.3%でした。

都合のいい数字を引用して、そんな筈はない！と、はねつけるだけの答弁ではなく、感じないのは何故なのか？どこかに見落としがあるのではないか？そういった謙虚な姿勢と政権運営をお願いしつつ、以下、本補正予算に反対する理由を申し述べます。

第一に、財政を顧みない予算となっている点です。

我が国の危機的な財政状況に鑑みれば、本補正予算の財源である28年度剰余金は全額を国債償還に充てることを検討すべきであり、建設国債の追加発行1兆2千億円についても、将来世代の負担を思えば、到底容認できるものではありません。

第二に、公共事業バラマキ予算となっている点です。

災害対策など、必要な公共事業があることは理解しています。しかしながら本補正予算における事業内容を見ると、利権の温床との批判も多い、土地改良事業に1400億円など、バラマキとのそしりを免れない事業が紛れ込んでおり、反対せざるを得ません。

第三に、防衛関係費の精査が不十分な点です。

例えば、陸上型イージスについては、アメリカからの情報等取得費だけで28億円もの大きな額が計上されております。

最後に、補正予算編成の要件とされる緊要性に欠ける点です。

環境大臣、教えてください。「生産性革命」名目で9億円計上されている「子供の健康と環境に関する全国調査」は差し迫って必要な調査ですか？どの辺りが生産性ですか？革命ですか？健康どころか貧困と言われる子どもたちが、お腹がすいて眠れないといっている子どもたちが、今、この国には48万人いるともいわれています。こちらの方が緊急ではありませんか？

総務大臣、マイナンバーカードに旧姓併記をするためだけの、そのシステム改修費に100億円って、必要ですか？昨年の補正でも93億8千万円が計上されております。改修はいつになったら完了するのですか？旧姓併記より保育園を、システム改修より保育の質の方が喫緊の課題です。

民進党は、国民本位の政治を取り戻す努力を続ける決意を申し上げ、私の討論を終わります。